

がんばっています

訪問看護室



笑顔の素敵な
河本 N S

訪問看護室 河本万喜世

訪問看護は、在宅療養者と介護者が望む生き方や生活ができるよう、援助することだと思います。人の生き方は、十人十色で、それぞれに味があります。在宅療養者や介護者の主体性、個性を尊重しつつ、看護を展開することが、私たち訪問看護師に求められています。病院や施設ですこされる方もあります。二年間の訪問を振り返ると、在宅療養が続けられる方々は、最後まで素敵な表情をされていたということです。介護の大変さは、私達の勤務のように時間で終わらないことです。訪問時介護者の労をねぎらい、介護の苦労話をお伺いし、介護を続けていた

いています。在宅の方々から学ぶことも多く療養者や介護者に感謝しています。「生あるものは必ず滅びる」のは自然の理です。在宅で最後を迎えられる方もいらっします。そんな時は、主治医が休日や夜間でも往診してくださいました。ご家族だけでなく、私たち看護師も心強く、往診していただける先生方には感謝しています。これからも、惜しまれて終わる、そんな在宅での援助をしていきたいと思ひます。



松永 N S、ご家族と処置中

退院支援

はみんなのつながり

地域連携室 石山久子

皆さん、こんにちは地域連携室です。平成15年4月に開設され、岩本室長ほか6名のスタッフで次のような業務を行っております。

- ① 病診連携業務
- ② 介護保険サービス提供関連業務
- ③ 医療・福祉に関する相談業務
- ④ 主治医意見書の受付処理
- ⑤ 医療に関する苦情の受付 等です。

高齢社会の到来、核家族化が進む中で老介護や高齢者の一人暮らしなど介護を必要とするお年寄りが増えています。多くの入院患者様、家族様は退院にあたり入院以上に今後の療養生活や介護に不安や戸惑いを感じていることと思ひます。

担当看護師または師長より病状が安定し退院の目途がたつたが家族の状況により在宅での介護が困難、何かの援助があれば家に帰りたい、このような時医療相談へ依頼していただければ退院後の生活について相談させていただきます。退院までに何回か病棟訪問し状態をお聞きし地域（病院、施設）と連携をとり、ひとりひとりの患者様の生活を、どのように誰と支えていくか、医療、看護の情報が介護サービスにつながるよう支援していきたいと思ひます。あなたのケアマネは誰？と聞き、支援体制を整えば、「病院から追い出された」ではなく在宅へ安心して退院できるのではないのでしょうか。

患者様へ継続されたケアの提供を目指し情報交換をしましょう。



編集後記

子供のソフトボール全国大会で滋賀県守山市へ行ってきました。猛暑の中子供達の大汗をかきながらのプレーに大声援を送りました。結果は全国でベスト16に入りました。娘の成長した活躍ぶりに感動した3日間でした。とてもいい夏休みでした。今年度から編集委員となりました。よろしくお願ひします。

(萩原)